

第3次宗像市コミュニティ基本構想・基本計画 将来像と基本理念（原案）

これまで【第2次】

基本理念

成熟した
コミュニティ
(運営基盤の強化)

個性が輝く
コミュニティ
(地域特性を活かした事業展開)

つながりひろがる
コミュニティ
(多様な担い手による連携)

地区の個性を活かして
より高く、大きく成長する
ことを目指して
組織・事業を強化・充実

【組織の強化 (= 枝の成長)】

[成果] 部会や構成員の見直し、ボランティア人材の活用
人材育成のため研修会で地域の学び合いを促進
事務局処遇の見直しや労務等の共通仕様の整備
[課題] 担い手・役員の成り手不足、組織の固定化
ボランティア人材の継続的な活用

【事業の充実 (= 葉の成長)】

[成果] 地域の強みを活かした新たな事業の実施
防災等の新たな課題への取り組み強化
小中学校や大学等との連携事業の増加
[課題] 事業の固定化・マンネリ化、参加者の固定化
子どもや若い世代の参加、参画

【地域・住民 (= 幹) の実態把握】

[課題] 住民ニーズの把握が十分行えていない
地区の強み(特色)と弱み(課題)の再確認
地域活動への関心の低下 (自治会加入率の低下)
高齢化や核家族化の進展 (社会的孤立の増加)
価値観やライフスタイルの変化
(地域参画の機会・時間の減少)

【基本的な考え (= 根) の揺らぎ】

コミュニティ施策が本格化して20年が過ぎ、
“コミュニティ”が当たり前のものとして地域・行政内で定着
[課題] 市民参画条例の理念や協議会設立時の理想の薄れ
まちづくり計画の見直し、住民周知と啓発

これから【第3次】

将来像

子ども・若者から高齢者まで、すべての世代が参加・参画する持続可能なコミュニティ
～10年先、20年先の未来に向けて種を蒔く～

④実をつけ、種を蒔く 多様な住民の参画から次世代の育成へ

- 幅広く、多くの住民が関わりたいと思えるコミュニティへ
- 子どもや若い世代の声を聞き、参加、参画機会を増やす
→参画を通して、子どもたちや若い世代の
コミュニティへの愛着を育む
⇒未来の担い手を育てる

③枝・葉を整える より長く、親しみやすく育つために“幹”にあった組織や事業の見直し

- 地域組織の個別最適化 協議会・自治会・行政の役割の整理
効率的・効果的な事業展開
組織内の役割分担の見直し ⇒ 担い手が担いやすい形への変革
- 事業や活動内容の選択と集中
「すべきこと」住民のつながりづくり (あらゆる世代の社会的孤立の防止)
“住民の命と暮らしを守る” 地域組織への転換
「(地域だけでは)できないこと」→ “多様な主体との連携”
他地区、学校、市民活動団体、企業、ボランティア人材等との協力体制の構築
「できること」人材や地域資源を活かした特色ある取り組み

②幹を知る 地域の実態、人の変化を捉え、「できること」「すべきこと」を整理する

- 相互理解の促進 コミュニティ：社会状況や住民の価値観の変化への理解
住民の関心を高める (継続的な情報発信と啓発)
行政：地域の現状を知り、市政におけるコミュニティの役割の再認識
- 地域の自己分析 住民ニーズの把握、地域の強み(特色)・弱み(課題)の再確認
⇒地域が「できること」「すべきこと」の再認識
「地域のことは地域で」から「地域でできることは地域で、できないことは他の誰かと」
→ “多様な主体との連携”を考える

①根を確かめる 基本的考えに立ち返る

- ・市民参画条例「当該コミュニティにおける自主的な活動を推進するとともに…
…諸課題の解決に主体的に取り組む」
- ・各地区の設立時の想い、目指す姿の再認識
(まちづくり計画における将来像の見直し、語り直し)

成果と課題

組織

事業

地域・住民

基本的考え